



TITLE:

表紙・投稿規定・ニュース・人の
うごき・プレプリント案内・掲示板
・目次・裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・投稿規定・ニュース・人のうごき・プレプリント案内・掲示板
・目次・裏表紙ほか. 物性研究 1964, 2(4): 218-227

ISSUE DATE:

1964-07-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/85598>

RIGHT:

vol. 2 no. 4

物性研究

1964|7

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で private communication 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため、原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式・記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。
4. 図の縮尺はいたしません。図は不必要に大きくせず、それぞれ適当な大きさに画いて下さい。

○別刷が入用な場合は、投稿の際に所用部数を10部単位で申込んで下さい。原則として、別刷代の校費による支払いの取扱いはいたしません。

購読規定

1. 本誌は「物性研究購読会」の会員にのみ配布します。
2. 「購読会」の会員には個人会員、機関会員の別があります。会費を個人が支払うばあいを個人会員とし、機関が支払うばあいを機関会員とします。
3. 個人会員には入会の際、入会金 100円を納めていただきます。退会の際には入会金はお返ししません。機関会員は入会金を要しません。
4. 会費は月額、個人会員 160円、機関会員 300円とします。
5. 会費は前月中に前納していただきます。会費が前納されなかったときは雑誌の発送を停止し、会費を2ヶ月以上滞納した会員は退会したものとみなします。

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で private communication 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため、原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式・記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。
4. 図の縮尺はいたしません。図は不必要に大きくせず、それぞれ適当な大きさに画いて下さい。

○別刷が入用な場合は、投稿の際に所用部数を10部単位で申し込んで下さい。原則として、別刷代の校費による支払いの取扱いはいたしません。

購読規定

1. 本誌は「物性研究購読会」の会員にのみ配布します。
2. 「購読会」の会員には個人会員、機関会員の別があります。会費を個人が支払うばあいを個人会員とし、機関が支払うばあいを機関会員とします。
3. 個人会員には入会の際、入会金 100円を納めていただきます。退会の際には入会金はお返ししません。機関会員は入会金を要しません。
4. 会費は月額、個人会員 160円、機関会員 300円とします。
5. 会費は前月中に前納していただきます。会費が前納されなかったときは雑誌の発送を停止し、会費を2ヶ月以上滞納した会員は退会したものとみなします。

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で private communication 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため、原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式・記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。
4. 図の縮尺はいたしません。図は不必要に大きくせず、それぞれ適当な大きさに画いて下さい。

○別刷が入用な場合は、投稿の際に所用部数を10部単位で申込んで下さい。原則として、別刷代の校費による支払いの取扱いはいたしません。

購読規定

1. 本誌は「物性研究購読会」の会員にのみ配布します。
2. 「購読会」の会員には個人会員、機関会員の別があります。会費を個人が支払うばあいを個人会員とし、機関が支払うばあいを機関会員とします。
3. 個人会員には入会の際、入会金 100円を納めていただきます。退会の際には入会金はお返ししません。機関会員は入会金を要しません。
4. 会費は月額、個人会員 160円、機関会員 300円とします。
5. 会費は前月中に前納していただきます。会費が前納されなかったときは雑誌の発送を停止し、会費を2ヶ月以上滞納した会員は退会したものとみなします。

人のうごき

○ 恒藤敏彦氏 (阪大基工) 渡米滞在地

Rutgers, The State University,
College of Art and Science,
Department of Physics,
New Brunswick, New Jersey, USA.

○ 久保 亮氏 (東大理)

Auchen (統計力学国際会議), Paris (半導体国際会議),
Harwell, Nottingham (磁性国際会議) などに出席のため 6 月 12
日に出発された。9 月中旬に帰国される予定

○ 小野 周氏 (東大教養)

6 月 12 日～7 月上旬 Auchen の統計力学国際会議へ出かけられた。

ニュース

(1) 九大物性論懇談会 6 月例会 講演題目

(i) 高島良正 (九大理・化) Mössbauer 効果の化学における応用

(ii) 村上昭年 非平衡流体の分子論的記述について

(2) 物理学会九州支部 (55 回), 応用物理学会九州支部合同例会における
物性関係発表論文 (於九工大 39 年 6 月 20 日出) 13 時 30 分より)

(i) 福富清大 (大分大) ピコソ結晶の Vibrational Absorption Line

(ii) 甲木伸一 (九大・工) 辻幹男 (九大工) Mg のバンド構造

(iii) 二神光次 (九大・工)

大木 茂 (九大・工) 微小巾 X 線ビーム法による LiF 格子欠陥の観察

米田泰治 (九大・工)

人のうごき

○ 恒藤敏彦氏 (阪大基工) 渡米滞在地

Rutgers, The State University,
College of Art and Science,
Department of Physics,
New Brunswick, New Jersey, USA.

○ 久保 亮氏 (東大理)

Auchen (統計力学国際会議), Paris (半導体国際会議),
Harwell, Nottingham (磁性国際会議) などに出席のため 6 月 12
日に出発された。9 月中旬に帰国される予定

○ 小野 周氏 (東大教養)

6 月 12 日～7 月上旬 Auchen の統計力学国際会議へ出かけられた。

ニュース

(1) 九大物性論懇談会 6 月例会 講演題目

(i) 高島良正 (九大理・化) Mössbauer 効果の化学における応用

(ii) 村上昭年 非平衡流体の分子論的記述について

(2) 物理学会九州支部 (55 回), 応用物理学会九州支部合同例会における
物性関係発表論文 (於九工大 39 年 6 月 20 日出) 13 時 30 分より)

(i) 福富清大 (大分大) ピコソ結晶の Vibrational Absorption Line

(ii) 甲木伸一 (九大・工) 辻幹男 (九大工) Mg のバンド構造

(iii) 二神光次 (九大・工)

大木 茂 (九大・工) 微小巾 X 線ビーム法による LiF 格子欠陥の観察

米田泰治 (九大・工)

IXth International Conference on Low Temperature Physics

PROF. J. G. DAUNT
DEPARTMENT OF PHYSICS
OHIO STATE UNIVERSITY
COLUMBUS 10, OHIO
CY 3-2369

DR. F. J. MILFORD/MRS. E. B. CARUZZI
BATTELLE MEMORIAL INSTITUTE
505 KING AVENUE
COLUMBUS 1, OHIO
AX 9-3191

August 31-September 4, 1964

May 21, 1964

THIRD NOTICE

Preliminary Program

- Aug. 31 a.m. Symposium on Superfluidity
p.m. F. London Award
Symposium on Quantization and Vortices in
Superconductors and Liquid Helium
- Sept. 1 a.m. Symposium on Fermi Surfaces
p.m. Contributed Papers
- Sept. 2 a.m. Symposium on Low Temperature Transitions
- Sept. 3 a.m. Contributed Papers
Symposium on Quantum Liquids
p.m. Contributed Papers
- Sept. 4 a.m. Contributed Papers
Symposium on Dilute Alloys with Transition
Metals
p.m. Contributed Papers

Preliminary List of Invited Speakers

(At this date it is not known whether
all the invited speakers will be as
listed)

P. W. Anderson Weak Superconductivity and Josephson
Tunneling

ニュース

J. Bardeen	Introduction to Symposium on Superfluidity
R. Brout	Title to be Announced
E. Daniel	Localized States in Dilute Alloys
C. Domb	Lambda Point Transitions
W. M. Fairbanks	Quantized Flux
P. G. de Gennes	Vortex Lines in Superconductors
L. Gnr'kov	Title to be Announced

Preliminary List of Invited Speakers (Continued)

C. C. Grimes	Interaction of Helicon Waves and Sound Waves in Potassium
E. F. Hammel	Introduction to Symposium on Low Temperature Transitions
V. Heine	Calculations of Band Structures and Fermi Surfaces
I. M. Khalatnikov	Title to be Announced
A. F. Kip	The Role of the Fermi Surface in Low Temperature Physics
P. C. Martin	Hydrodynamics and Kinetic Theory of Superfluids
R. D. Parks	Quantized Vortices in Superconductors
D. Pines	Correlations and Excitations in Quantum Liquids
F. Reif	Study of Quantized Vortex Rings in Superfluid Helium
D. Shoenberg	Present Experimental Knowledge of Fermi Surfaces in Metals
R. W. Stark	Magnetic Breakdown in Magnesium and Zinc
G. J. van den Berg	Anomalies in Dilute Metallic Solutions

of Transition Elements

Reminders

Deadline date for submission of abstracts of contributed papers June 15, 1964

(Send to LT 9, P. O. Box 3073, University Station, Columbus, Ohio)

Deadline date for Registration July 14, 1964

(Send forms and \$10 fee to LT 9, P.O. Box 3073, University Station, Columbus, Ohio)

Deadline date for dormitory accommodation request

(Send forms to Dean M. W. Overholt, July 14, 1964
308 Pomerene Hall, 2884 Neil Avenue,
Columbus 10, Ohio)

夏の学校御案内

物性論若手グループ夏期研究会（通称夏の学校）の御案内

開催場所 長野県菅平

会 期 8月2日出より8月7日(金)まで

費 用 一人一日（三食付）500円程度の自己負担となる予定

内 容 A) 全体講義

理論コース

(1)小口武彦先生（磁性体の統計理論）

(2)小野周先生（気体の統計理論－Bogoliubovの理論）

(3)斉藤信彦先生（生体物質の物性論）

実験コース

(1)今井勇先生（Blochのeffective mass方程式）

生島 明先生 サイクロトロン共鳴)

(2)上田良二先生 (電子顕微鏡と電子回折)

(3)霜田光一先生 (強い電磁波と物質との相互作用)

* 全体講義テキストが用意されます。

B) サブグループ活動

磁性，半導体，イオン結晶，多体問題，物性基礎論，高分子，
回折の七グループが設置されます。

各グループ共専門家を迎え講義，論文論議，discussion 等を行います。高分子グループは今年はじめて設立されました。金属，結晶の2グループは開設致しません。

申込みは原則として研究室単位で行い申込予約金一人1,000円をそえて当番校へ申込んで下さい。締切は当番校着7月15日ですが申込者が300人をこえましたら収容能力の制限から締切らせていただきます。

詳細は殆んどの研究機関，学科教室宛に案内書を送付してありますので申込み前に閲読下さいますようお願いいたします。

物性若手総会，懇親ピクニック等も計画しております。ふるつて早目に御申込み下さい。

申込先 東京都新宿区戸塚一丁目 早稲田大学

理工学部応用物理斉藤研究室

夏の学校準備会

日 程 表

		8月								
		土	日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	6	7	8	
800 940 1000 1140 130 530 700	開校式									閉校式
		全 体 講 義 (I)								
		全 体 講 義 (II)				全 体 講 義 (III)				
		昼 食				ピクニック	昼 食			
		サブグループ活動					サブグループ活動			
		夕 食					夕 食			
		コンパ		総合講演			若手物性総会			

共同研究協議会についてのシンポジウム開催御案内

1964年5月4日の原子核特別委員会は研究体制小委員より（1964年3月27日の委員会に）提出された共同研究協議会について、次のようなシンポジウムを開催することになりました。御出席下さいますようお願いいたします。

日 時 : 1964年7月13日, 14日, 15日.

13日は午後2時より

15日は午後3時まで

場 所 : 13日 名古屋大学理学部物理教室

14日 名古屋市科学館

15日

プログラム予定

第1日 ○ 共同研究協議会について

体制小委の報告

各分野からの討論

第2日 ○ 共同研究協議会について

討論つづき

○ 各大学と共同利用研の関係

各大学物理教室の報告

物性小委アンケートの報告, 討論

第3日 ○ 体制小委員会（シンポジウム終了後）

シンポジウムの結論に基く作業

核特委幹事 長崎 正幸

〔資料〕 共同研究協議会について

物理学将来計画はこれまで学術会議の関係委員会で立案検討されてきて、その一部はすでに総会提案となり勧告されました。しかし計画を具体化し、実行する適当な機関は現存せず、各大学、各共同利用研に分けて予算要求が行われています。

将来計画の実行機関の理想像として総合機構が考えられているわけですが、その卵を現実につくり出さねばならない時がきていると考えられます。

I 総合研究機構とその卵

総合研究機構のイメージ，原則にてらしてその卵がどんなものになるか、について体制小委報告書は次のように書いています。

「総合研究機構のかなめは、評議会（又は物理部会）にあつて、そこは計画全体の実行をつかさどる決定機関である。その人選と運営は全国研究者の自主性のもとに行われなければならない。

原子核特別委員会は今までも、上述の評議会のような仕事をいく分かは、実質的に（各目的はそうではないが）行つて来た。

いくつかの共同利用研究所の設立と運営とが、その例である。将来、総合研究機構が出来るときには、我々の原案では、原子核特別委員会（又は原子物理学特別委員会）と評議会とは、相互関連はあるが、互いに独立したものになると考えてきた。そこにいたる道程のどこで、どのような条件のもとに準備会の卵がつくられねばならないだろうか。

全国 原子核研究者にお願いしたアンケートの集計によると、圧倒的多数が評議会の卵（執行部的と表現したもの）が原子核特別委員会から切りはなされて生まれることに反対である、全国研究者の自主性の原則が原子核特別委員会から切りはなされると成立しないと云う判断である。

評議会の卵を学術会議の中につくるのも一つの可能性であるが、本小委員会では、物理学関係の共同利用研究所の集合体をつくつてそこに卵をつくる案を検討した。

試案を学術会議総会への提案のような形で、次に記しておく。

（提 案） 物理学共同研究協議会は次のような仕事を行う。

- 1) 物理学将来計画の立案検討は、学術会議の委員会で行うが、それを実行案（概算要求書を含めて）にするのはこの協議会で行う。
- 2) 共同利用研、相互間の連絡，共同作業を行う。
- 3) いくつかの共同利用研にまたがる研究、1つの共同利用研の仕事からはみ出す研究の中心となり、必要な研究委託を行う。
- 4) 各共同利用研が単独で行うが適当なものにここで手をふれない。

この評議会は物理関係 5 つの共同利用研究所をおおい、必要に応じて、他の共同利用研の参加を求める。又、5 つの内研究の題からみて、基礎物理研究所が中心となり、そこに協議会が置かれるのがよい。

—以 上—

これからみると、共同研究協議会はいわば、5 つの物理関係共同利用研にまたがる大きな運営委員会のようなもので、ただ各研究所に個有なものは扱わないところがちがいます。それはこれまでの共同利用研の運営委員会と同じように、学術会議の委員会と表裏一体なもので、協議会の下部機構には、共同利用研の連絡会や研究委託を決める委員会、姿なき研究所などがおかれることが考えられます。

II 共同研究協議会が扱う仕事の例

この組織が扱うにふさわしいと思われる仕事として次のようなものが考えられます。

1° 二つ以上の共同利用研の共同作業とする方がよいもの

例． 合同研究会．原子核加速器を用いた物性研究

2° どの共同利用研にも共通していて、しかもどこでもやりにくいもの

a. Snnmmer School. 成人学校など

b. いわゆる x 部内の研究

3° いくつかの共同利用研にまたがり、プロジェクト研究を中心に姿なき研究所を作つた方がよいもの

例． 宇宙線研究

4° 既存の共同利用研のひさしをかりて芽を出すもの

例． 素粒子研究所

5° 既存の共同利用研の大拡張はこの組織で討議するか、それぞれの研究所から要求を出す。

例． 第二核研

この組織は卵である以上、総合研究機構が扱う仕事の全部を扱うことはできませんが、その卵になつていなくては困るわけです。各分野でこの組織が

ニュース

扱うべき仕事，この組織に対する要求など討論して下さるようお願いします。

出席予定者

物理学共同利用研究所．素粒子研究所準備調査委員会．核談話会低エネルギー委員会．宇宙線実行委員会．物性小委．各大学小委．各大学小委
関西原子炉．航空宇宙研．核特委正副委員長及幹事．体制小委員（物性小委よりの5名を含む）

以上の研究所委員会より代表として1～2名出席いただきたいと思います。
尚、次の委員会にも御通知して御都合がよろしければ出席いただくようお願いする予定です。

J S C 会長．長期計画委員会．共同利用研究所検討小委．物研連．融特委
力特委．COSPAR．計算機小委．核特委

総合事務局

プレプリント案内

- O Theory of Low-temperature Residual Paramagnetism in Antiferromagnetic FeF_2 and Cr_2O_3 (S.D. Silverstein and I.S. Jacobs).
- O Variation du Knight shift à la fusion dans les métaux alcalins (F. Lackmann).
- O Spin Wave Interaction in the Itinerant Electron Model of Ferromagnetism (K. Kawasaki)
- O O.P.W. Method and Total Energy of a Metal (R. Pick G. Sarma)

〔以上 阪大永宮研〕

- O Ferroelectricity and Lattice Dynamics (B.D. Silverman).

〔北大 研〕

- O A Method of Solving the Many-Body K-Matrix (K.W. Wong)
- O Quantum Mechanics of Many-Boson System at Low Density

〔以上 物性研中嶋研〕

(H. Ezawa)

ニュース

扱うべき仕事，この組織に対する要求など討論して下さるようお願いします。

出席予定者

物理学共同利用研究所．素粒子研究所準備調査委員会．核談話会低エネルギー委員会．宇宙線実行委員会．物性小委．各大学小委．各大学小委
関西原子炉．航空宇宙研．核特委正副委員長及幹事．体制小委員（物性小委よりの5名を含む）

以上の研究所委員会より代表として1～2名出席いただきたいと思います。
尚、次の委員会にも御通知して御都合がよろしければ出席いただくようお願いする予定です。

J S C 会長．長期計画委員会．共同利用研究所検討小委．物研連．融特委
力特委．COSPAR．計算機小委．核特委

総合事務局

プレプリント案内

- O Theory of Low-temperature Residual Paramagnetism in Antiferromagnetic FeF_2 and Cr_2O_3 (S.D. Silverstein and I.S. Jacobs).
- O Variation du Knight shift à la fusion dans les métaux alcalins (F. Lackmann).
- O Spin Wave Interaction in the Itinerant Electron Model of Ferromagnetism (K. Kawasaki)
- O O.P.W. Method and Total Energy of a Metal (R. Pick G. Sarma)

〔以上 阪大永宮研〕

- O Ferroelectricity and Lattice Dynamics (B.D. Silverman).

〔北大 研〕

- O A Method of Solving the Many-Body K-Matrix (K.W. Wong)
- O Quantum Mechanics of Many-Boson System at Low Density

〔以上 物性研中嶋研〕

(H. Ezawa)

プレプリント案内

O Variation du Knight shift a la fusion dans les metaux
alcalins (F. Lackmann)

O Paramagnetic Resonance of S-State Ions Metals oh High
Paramagnetic Susceptibility (D. Shaltiel, J.H. Wernick,
H. J. Williams and M. Peter)

〔以上 物性研芳田研〕

物 性 研 究

第 2 卷 第 4 号

1964年7月10日発行

発 行 人 碓 井 恒 丸

印 刷 者 倉 本 作 雄
京都市左京区岡崎徳成町11

発 行 所 物 性 研 究 刊 行 会
電話(77)8111内線983
振 替 京 都 5312
京都市左京区北白川追分町
京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

プレプリント案内

O Variation du Knight shift a la fusion dans les metaux
alcalins (F. Lackmann)

O Paramagnetic Resonance of S-State Ions Metals oh High
Paramagnetic Susceptibility (D. Shaltiel, J.H. Wernick,
H. J. Williams and M. Peter)

〔以上 物性研芳田研〕

物 性 研 究

第 2 卷 第 4 号

1964年7月10日発行

発 行 人 碓 井 恒 丸

印 刷 者 倉 本 作 雄
京都市左京区岡崎徳成町11

発 行 所 物 性 研 究 刊 行 会
電話(77)8111内線983
振 替 京 都 5312
京都市左京区北白川追分町
京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

目 次

講義ノート

分子生物学.....福留 秀雄 199

人の動き.....218

ニュース

超伝導国際会議、物性夏の学校案内.....218

プレプリント案内.....226

目 次

講義ノート

分子生物学.....福留 秀雄 199

人の動き.....218

ニュース

超伝導国際会議、物性夏の学校案内.....218

プレプリント案内.....226